

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

4頁 -シリーズ召命- どうして神父さまに!! 森田直樹神父

6頁 絵画を通しての祈りⅡ -カラヴァッジョ 通称《洗礼者聖ヨハネ》の謎-

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2018年 司教年頭書簡 「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

エコロジーと回心

「回心」という言葉を聞くと、まず「罪を悔い改めること」を想像するのではないのでしょうか。確かに現代人は自然の環境を犯すという大きな罪を犯しました。だから悔い改めて「自然と和解し正しい出会いをしなればならない。これは未来の世界に対する貢献でもある」と。確かにそうだろうと思います。

「回心」という言葉は、司教の年頭書簡にもあらわれます。しかし、ある解説書は、「回心」という言葉の代わりに、「自然との調和」あるいは「和解」という言葉を使います。今年度の教区聖書講座は「和」という言葉を使っています。「和」という言葉は、日本人にとって特別なひびきを持つように思います。しかし、この「和」という言葉を解説するのに、適当な言葉が見つからず、ほとんど不可能にさえ思え、翻訳となるとなかなか適当な言葉が見つからないほど、日本語特有のニュアンスをもっているかに見えます。



(もっとも、これは私個人の感じ方かも知れませんが)。でも、それでも、「和」という言葉が一番良い表現ではないかと思うのです。聖フランシスコの感じ方、そして日本人の心に深い共感と呼び起こす、良寛や芭蕉、西行や法然、親鸞、道元など、「妙好人」と呼ばれる浄土真宗の篤心信者

5
2018

たち、また、一遍や空也、一茶、等々自然に生きた数々の「聖(ひじり)」たちを思うとき、何か自然と一体になって、生きた人々の霊性の中に、にじみ出ている「自然との和」の心に親しみを憶えるのです。本来、日本人は、自然に対する畏敬の念と自然のそれぞれを司る神を祭る風習が根強く、今も祭りとして残っています。これは環境を大切にするという観点からは、とても大切なことです。

さて、日本語では、「かいしん」(あえてひらがなで書きます)ということばは、「回心」、「改新」、「悔い改め」などであらわしますが、辞書を引いてみると、これに類するものに、「会心」、「戒心」、「戒慎」、「改進」などがあります。このエコロジーの問題に取り組むとき、自然と神と人との、自分との関わりに豊かな視点を与えてくれます。聖書のギリシャ語ですと、主に「メタノイア」「エビステフォー」という語があるそうです。「エビステフォー」は、神を想起して実際に操行を改めること。「メタノイア」は内面的な方向転換を指すのだと言われます。ちなみに澤田和男神父は、逆

さに読むと「アイノタメ」となりますね。と言われます。

本田哲郎神父は、「メタノイア」とは、「視線の変換」ではなく、「視点の変換」を意味すると言われる。では、「どこに視点を置くか」それは「貧しい人、弱い立場に追いやられた人、小さくされた人々の側に立って、その痛みに共振することであって、ただ『まなざす』ことではない」と言われる。

環境問題を論ずるとき、この解釈はとても大切だと思います。環境破壊によって最も傷つくのは、貧しい人々ですし、大地そのものでもあります。実際、貧困と環境破壊(開発も含めて)の関係は、最も重要な視点であることを、教皇も強調しておられます。

環境問題は、単なる社会問題ではなく、「宗教的」しかも最も「福音的な問題」であることを指摘されていることに、特に注目すべきでしょう。つまりエコロジーの霊性は、最も「福音的、キリスト教的霊性」の根幹に触れるものだというのです。現代社会において、福音的に生きようとしたいならば、このエコロ

ジーの問題を避けて通ることは出来ないのです。

今回、私たちに与えられたテーマは、エコジカルな「回心」ということでしたが、その「回心」という言葉を、何か冷たい、堅苦しい、そして、悲愴で深刻な自然への取り組みや考え方、生き方、観方の転換ではなく、もっと温かい心を持つての転換ではないと思います。

深い思いやり、いとおしみ、美しみの心、尊敬や大切に思う心を持つこと、それこそ聖フランシスコの母や姉妹に接するように、大地に優しくほのぼのとした「睦み」ほんのりとした温かい和みの心を持って、自然に触れ、共にし、深い一体感、親近感を持って自然と接し、共に祈り共に歌う、霊的なロマンティストであること、それがあればな、と思います。それはまさに、神の愛と慈しみに想うということにも成ろうかと、思うからです。

自然と共に神の愛と栄光を「詩う」と(「歌う」こと)、そこに神に出会っている喜びと幸せを感じるのだと……。

(村上透磨)

教会学校



小学生の信仰教育についてのアンケート4

アンケート4

☆リーダー・スタッフ

教会の規模、教会学校のやり方、参加者数によっても差異がありますが、多くの教会で保護者と保護者以外の信徒の方が教会学校に携わっておられます。「保護者以外」のなかに、「保護者OB」が含まれています。

アンケートの回答によると、10代〜70代の幅広い年齢層の方が、リーダー・スタッフとしておられます。その中でも、10代〜20代の青年の関わりは大切です。



また、司祭、修道者の方が、少しでも関わってくださっていることは、とても心強いことです。

これからも、多くの方々が、子どもたちに信仰を伝えるため

に、関心を持って携わってくださることが望まれます。

教区信仰教育委員会

【教会数 39】

● リーダー・スタッフが関わっている教会数

青 年	いる 18	いない 21	
保 護 者	いる 20	いない 11	無回答 8
保護者以外	いる 28	いない 5	無回答 6
司祭・修道者	いる 23	いない 16	

青年達が集う望洋庵

日本家屋の望洋庵

望洋庵は西陣教会の司祭館を借りて活動しています。築一〇年を超える日本家屋で、たくさんの方が集まってどんなに賑やかにしていたとしても、常にひっそりした雰囲気を守ることのない、



不思議な静けさを漂わせている魅力的な建物です。望洋庵の活動の特色の一つは、分かち合いだと思

います。参加者ひとりひとりが、その時に心の中にある思いを、表現するひと時です。他者の口からこぼれ出る、飾らない正直な言葉にじつくりと耳を傾けて、静かな時を過ごします。そんな時、この家屋そのものが、注意深くひとりひとりに耳を澄ませてくれているような感じさえします。温かくて静謐なこの建物の雰囲気、ここに集う青年たちの心を与えてくれている、よい影響は計り知れないと思います。望洋庵の日本家屋でのミサは、木曜日と土曜日の朝7時半からです。その他の講座等については、京都教区時報やHP等でご案内しておりますので、どうぞご参加ください。ただ、古い建物ですので、屋内の鴨居は低く、青年が頭をガチンとぶつけている光景をしばしば見かけます。はじめてお越しの際は、この点、お気をつけください。お待ちしております。

教区広報委員会

シリーズー召命ー
どうして神父さまに!!

森田直樹 神父



今回は京都教区司祭森田直樹神父にお話を伺いました。

(2009年6月〜2010年6月に、掲載したシリーズの続編です)

○は編集子 ●は森田神父

○ カトリックとの出会いを聞かせてください。

● お寺の幼稚園から公立小学校に進み、洛星中学に入ってから、カトリックに触れました。イエスのお言葉に感銘を受けましたが、反抗期真っ只中に入ると、神父様方にも反抗し、宗教の成績が五段階の2だったこともあり、高校一年生の前後に、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世が来日されたり、親族の死を体験したりすることが重なり、洗礼を受けることを考えました。信者の友達に紹介してもらって、東門神父様の入門講座に通い、高校二年生



日本カトリック聴覚障がい者の会・名古屋大会 講演

○ のクリスマスに洗礼を受けました。
● 神父様になろうと思われたお話を聞かせてください。

● 洗礼を受ける頃と時期は重なるのですが、高校一年生の倫理社会の先生が、藤堂神父様でした。初夏の暑い日、おそらくご葬儀の帰りに学校にいられたのだと思いますが、黒いローマンカラーの礼服を私たちの前でお脱ぎになりました。ジレというのですが、金太郎さんの前掛けのような司祭の衣

装を目の当たりにして、大笑いしたのを覚えています。同時に、飾ることなくご自分をさらけ出された神父様に心惹かれるものがあり、「神父様の本職を見に教会に出かけても良いですか」とお願いしました。残念ながら、その翌年、神父様はガンで帰天され、これはないませんでした。神父様の葬儀は学校の授業があって、参列できませんでしたので、お通夜の席に参列しました。ロザリオの祈りの間、おばさま方のヒソヒソ声がどこからか聞こえてきました。「藤堂神父様が亡くなって、京都教区も司祭が少なくなるわね」と。そんな声を聞いて、「こんな僕でも神父になれるのだろうか」と思ってしまったのが、司祭召命のきっかけです。

○ 神学生になられてからのお話を聞かせてください。

● 1984年に名古屋の南山大学文学部神学科に入学し、神言神学院でお世話になりました。宣教修道会の神学校でしたので、外国から帰国した神父様



方の話を聞いたり、外国からの神学生と触れ合ったりする機会がありました。1990年に東京カトリック神学院に転校し、二つ目の神学院生活を過ごすことになりました。勉強はそこそこだったのですが、生活態度があまり良くなって、神学院からの評価が悪く、司祭叙階前には一カ月の黙想を田中司教様から命じられました。こんな私が司祭になるのは、やはりふさわしくないのだ、と落ち込んでいたのです



枝の主日 東仙台教会

が、ちょうど、冬から春へと季節の変わり目が体験できた黙想で、死んだように見えていた木々や芝生も、見事に芽吹いていく様子を目の当たりにして、私も確かに神の招きと恵みをいただいているのだ、と確信させていただいた時でもありました。

○ 司祭になってからどうでしたか。

● 初めての任地は、三重県の津・久居教会助任司祭でした。セントヨゼフ女子学園でも教えることができたので、



大船渡教会 ブロック・ロザリオ会ミサ

先生方との楽しい交流を深められた日々を過ごしました。京都に戻ってから、教区本部事務局でもご奉仕しましたが、京都教区の法人規則を改正したり、司祭給与分担金の制度を考えたりと忙しくも充実した五年間を過ごしました。アメリカで勉強する機会を与えられた後、東日本大震災・大津波が起こり、仙台教区でご奉仕することになりました。大船渡教会で一年半ご奉仕した後、仙台に移り、今年で6年目を



迎えます。

○ 今のお気持ちをお聞かせください。

● 司祭になった時、田中司教様から「司教に金を願わず、願われた仕事は断らず」と、教えていただき、それを守っていたら、あっという間に25年が過ぎてしまいました。今年は司祭銀祝の年ですが、皆さまのお祈りにいつも助けられているのだと思います。今までのお祈りに感謝申し上げます。ともに、これからも、お祈りをよろしくお願いいたします。

絵画を通しての祈りⅡ

—カラヴァッジョ 通称

《洗礼者聖ヨハネ》の謎—

講師 木村太郎氏

(大阪芸術大学・非常勤講師)

大塚喜直司教

福音宣教企画室で昨年始めた新しい試みである「絵画を通しての祈り」の第二弾を2月26、27日に行いました。絵画は美術作品でありながら、私たちキリスト者にとっては、祈りや黙想の助けとなるものでもあります。1600年頃に活躍したイタリアの画家、カラヴァッジョが描いたカラトリノ美術館の通称「洗礼者聖ヨハネ」という一枚の絵を取り上げ、その謎に迫りながら、良い黙想のヒントを得ることができました。

カピトリノ美術館の通称「洗礼者聖ヨハネ」は、その名の通り多くの研究者がこの絵の主題を「洗礼者聖ヨハネ」とみなしています。しかし本当にそうなの



か、カラヴァッジョはこの作品で一体なにを表現しようとしたのか、というのが木村氏の講演の中心的内容です。詳しい議論は省き、以下に少し内容を紹介いたします。

多くの研究者がこの絵を「洗礼者聖ヨハネ」だと主張しますが問題点もあり、最近になって新しい意見が主張されるようになりました。それはこの絵の主題が「解放されたイサク」だという主張です。そのように考えると、興味深い解釈が生まれます。イサクは「イサクの犠牲」という主題で描かれることが多く、ほぼ必ずアブラハムと一緒に描かれます。しか



しこの絵には描かれていません。ここで考えられるのは、この画面のイサクが視線を投げかけている相手は絵の外部にいる私たち鑑賞者であると同時にアブラハムでもあり、したがって私たちは代理のアブラハムとなり、アブラハムは絵画空間の外部で、鑑賞者という形を借りて存在しているということです。

さらに、なぜカラヴァッジョは、伝統的に多く描かれてきた「イサクの犠牲」ではなく「解放されたイサク」を描いたのかという疑問について、予型論という考えから、カラヴァッジョは「解放されたイサク」の場面を意図的に選択して視覚化することで、新たに「キリストの復

活」という意味を暗示しうる、斬新な図像というものを生み出そうとしたのかもしれません。

続いて大塚司教は、木村氏の講演を受け、この絵の主題を「解放されたイサク」と見て、創世記のイサクの犠牲の箇所(22章1節―19節)のポイントを解説しながら、イサクの燔祭とイエスの十字架上の犠牲、そしてアブラハムの視点、イサクの視点、父と子の関係について話してくださいました。

最後に「解放されたイサク」の絵に戻って、イサクという名は「笑う」という意味でありその名前通りの絵であること、そして「起き上がる」ということは「復活」を意味するということに触れて、カラヴァッジョが意図したであろうように私たちはアブラハムになり、アブラハムに倣って神の約束の実現を信じ、人間的な情を超えた神の摂理を信じていきたいと思います。

今回初めて、講座を夜の部と午前の部、二回実施したため、いつもより幅広



い年齢層の方、また美術に興味がある一般の方も多く参加してください、祈りの場としてだけでなく、キリスト教に初めて触れる機会、宣教の場にもなったのではないかと思います。今後も信仰養成のためのさまざまな講座を企画しておりますので、詳しくは次ページをご覧ください。

■カトリック京都司教区福音宣教企画室■

2018年 講座・研修会案内

回勅「ラウダート・シ -ともに暮らす家を大切に-」を読もう

受講費 300 円

《講演とミサ》「アッシジの聖フランシスコの霊性と回勅『ラウダート・シ』」

講師：小西広志 師（フランシスコ会）

日時：5月24日（木）▶講演：午後1時半 ▶ミサ：午後3時半

会場：河原町教会ヴィリオンホール

病者・高齢者奉仕講座（全2回）

受講費 各回 300 円

病者高齢者訪問講座が新しくなります！

「病者・高齢者奉仕講座」と名前を変え、さらに開かれた、そして現代に対応した講座に生まれ変わります。

第1回「ともに生きる」

講師：Sr.堀家秋子（聖ヨゼフ会、社会福祉法人聖ヨゼフ会理事長）

日時：6月14日（木）午後1時半 会場：河原町教会ヴィリオンホール

第2回「病者・高齢者の奉仕とは」（仮）

講師：平岡毅 氏（社会福祉法人聖ヨゼフホーム総合施設長）

日時：11月15日（木）午後1時半 会場：河原町教会ヴィリオンホール

福者京都 52 殉教者 列福 10 周年記念講演

講師：川村信三 師（イエズス会、上智大学文学部史学科教授）

日時：10月6日（土）午後 *時間未定 会場：河原町教会ヴィリオンホール

絵画を通しての祈りⅢ

受講費 500 円

「カラヴァッジョ ボルゲーゼ美術館の通称《洗礼者聖ヨハネ》の謎」（仮）

講師：木村太郎 氏（大阪芸術大学非常勤講師）

大塚喜直 司教

日時：[夜] 10月16日（火）午後7時

[昼] 10月17日（水）午前10時半 *両日とも同一内容です。

会場：河原町教会ヴィリオンホール

●小教区評議会役員研修会：5/12（土）午前10時半 会場：河原町教会ヴィリオンホール

●小教区評議会役員交流会：9/8（土）午前10時半 会場：河原町教会ヴィリオンホール

詳細は随時京都教区福音宣教企画室ホームページにアップいたします。ちらい・ポスターもご覧下さい。

お問い合わせ／カトリック京都司教区福音宣教企画室 TEL 075-229-6800

5月のお知らせ

教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊥㊦

聖書講座「回心－観想・祈り・詩うー」

日 時：16日㊥ 19:00 17日㊥ 10:30

テーマ：序 エコロジカルな回心と霊性

講 師：大塚 喜直司教

日 時：23日㊥ 19:00 24日㊥ 10:30

テーマ：地球はあなたのための私の家

講 師：村上 透磨師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：9日㊥ 10:30

講 師：北村 善朗師／参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

福音宣教企画室／Tel.075(229)6800

講演とミサ「回勅ラウダート・シを読もう」

「アッシジの聖フランシスコの霊性と

回勅『ラウダート・シ』

日 時：24日㊥ 講演 13:30／ミサ15:30

講 師：小西 広志師(フランシスコ会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

受講費：300円(申込不要)

京都教区カトリック正義と平和協議会

Tel. Fax.075(211)3484 Tel.㊥のみ

清水坂・鳥辺野フィールドワーク

日 時：19日㊥ 12:30 カトリック会館集合

講 師：山田 邦和教授(同志社女子大学)

受講費：無料(移動代 実費)

締切り：15日㊥(事前申込要)

ブロック

奈良ブロック

聖書講座「神のまなざしを思う」

日時場所：11日㊥ 19:00 大和郡山教会

12日㊥ 10:00 奈良教会

講 師：柳田 敏洋師(イエズス会)

日時場所：25日㊥ 19:00 大和八木教会

26日㊥ 10:00 奈良教会

講 師：柳本 昭師

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛に Fax.075 (211) 3041 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 7月号の原稿締切り日は5月23日㊥です。

修 道 会

ノートルダム教育修道女会

女子青年黙想会 <マルコによる受難>

日 時：26日㊥ 15:00～27日㊥ 15:30

場 所：ノートルダム唐崎修道院

指 導：山内 十束師(御受難会)

対 象：独身女子青年信徒／費用：2,500円

締切り：21日㊥(事前申込要)Sr. 桂川

申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：13日㊥ 14:00／26日㊥ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館 6 階

京都カナの会

例会：6日㊥ 13:30 カトリック会館 6 階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：24日㊥ 10:00／31日㊥ 10:00

カトリック会館 6 階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：10日㊥ 13:00

カトリック会館 6 階

望洋庵／Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：10日㊥ 19:00／24日㊥ 19:00

指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師

参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座

日 時：15日㊥ 19:00／29日㊥ 19:00

指 導：大塚 乾隆師

参加費：200円(食事代含)

青年センターとの合同企画

「植物園で、聖書に出てくる植物を探そう！」

日 時：19日㊥ 11:00 北山駅集合～植物園

15:00 望洋庵～18:00解散

対 象：高校生以上35歳まで

参加費：400円(高校生350円)

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイ A

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「喜びと平和のうちに」

出演は松村 信也師(イエズス会)

ラジオ(KBS京都) ㊥～㊥ 朝 5:55

㊥ 朝 5:15

5月のテーマ「わたしの好きな言葉」

大塚司教の

5月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



1日(火)～4日(金) 安心院トラピスチン修道院訪問

6日(日) 11:00 東舞鶴教会ミサ

15:00 西舞鶴教会 英語ミサ

8日(火) 16:00 青少年委員会

10日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会

12日(土) 10:30 小教区評議会役員研修会
(河原町教会)13日(日) 11:00 奈良ブロック 合同堅信式
(大和八木教会)

14日(月)～15日(火) 司祭親睦会

16日(水) 19:00 教区聖書講座

17日(木) 10:30 教区聖書講座

20日(日) 14:00 京都南部地区 合同堅信式
(北白川教会)

21日(月) 14:00 司教顧問会

22日(火) 14:00 (社福)カトリック京都司教区
カリタス会 理事会

23日(水) 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会

24日(木) 14:00 (学法)カトリック京都学園・
京都南カトリック学園 理事会27日(日) 14:00 三重 合同堅信式
(四日市教会)28日(月) 13:30 四日市メリノール学院
理事会・評議会18:00 東北アジア和解フォーラム
(コープイン京都)29日(火) 14:00 (学法)滋賀カトリック学園
理事会30日(水) 10:30 司祭・司牧者集会
(河原町カトリック会館)15:00 司祭評議会
16:00 東北アジア和解フォーラム参加者
カテドラル訪問

第35回ネットワークミーティング in 京都

実行委員会代表 田中 一光

今回のネットワークミーティング(以下NWM)のテーマは「むすんで ひらいて」です。「むすんで」には結末という結びの他にも、学びや人との繋がり、さらには何かを作り上げるという意味まで多種多様にあります。「ひらいて」にも同様に、開くという言葉以外にも新しく始めることや理解するなどの意味もあります。NWMに参加してくださる方々ひとりひとりが様々な「むすび」に実感し会得し「ひらいて」いく、各々が全く違った充実が得られる、そんな場を提供したいと活発に活動しております。神様のお導きのもと良いNWMになりますように、お祈りいただければと思います。

【青年センターHP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

第35回
ネットワークミーティング in 京都

むすんで
ひらいて

日時：2018年9月22日(土)～23日(日)
14:00 集合/14:30 開始 14:00 解散(予定)

場所：京都府立青少年海洋センター「マリーンピア」
〒626-0068 京都府宮津市宇田井小学大池 382

定員：120名
参加費：社会人 6,000円/学生 5,500円(延泊 4,000円)
対象：18歳以上(高校生不可)

主催：第35回 ネットワークミーティング in 京都 実行委員会
後援：カトリック青年連絡協議会、京都教区青少年委員会

ネットワークミーティングの情報を動画で！
京都カトリック青年センター
<http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>



青年センターあんでな